

まえがき

著者	郭 南燕
雑誌名	世界の日本研究
巻	2013
ページ	5-8
発行年	2013-10-18
その他の言語のタイトル	Preface
特集号タイトル	日本研究の新しい動向 New Trends in Japanese Studies
URL	http://doi.org/10.15055/00003655

まえがき

郭 南燕

国際日本文化研究センター（以下、日文研と略）の刊行物である『世界の日本研究』は、1990年の発刊以来、1990～1994年と2001～2003年にかけて、海外における日本研究の歴史と現状について報告している。それらの報告集では、世界各地の日本研究に幅広く目が配られ、その豊富な様相が紹介されている。具体的には、次のような内容である。

『世界の日本研究』第1号（1990年）

ポーランドにおける日本認識及びその文化研究へのアプローチ

ハイデルベルク大学の日本研究

コロンビア大学の日本研究

ミシガン大学の日本研究

『世界の日本研究』第2号（1991年）

改革後の東ヨーロッパの日本研究

台湾の日本研究——日本文学研究を中心として

イタリアの日本研究

サンパウロ総合大学の日本語・日本文化研究

ハーバード大学の日本研究

インドの日本研究

デンマークの日本研究

『世界の日本研究』第3号（1991年）

ヨーロッパ日本研究協会設立の頃

アメリカの日本研究の第一世代

ドイツ・オーストリアにおける日本学の現状

Current Studies on Japanese Culture, Literature and History in Leningrad

Soviet Studies in Japanese History

Studies of the Japanese Economy in Soviet Union

『世界の日本研究』第4号（1992年）

The Study of Japan in the Philippines: Focus on The University of the Philippines

Recent American Doctoral Studies of Japanese Thought

『世界の日本研究』第5号（1993年）

インドネシアにおける日本研究の現状と将来

フランス国立科学研究所における日本研究

ソ連における現代日本文学研究

チェコスロバキアにおける日本研究

トルコの日本研究

エジプトの日本研究

ブルガリアにおける日本研究

吉林大学の日本研究

中国における日本研究

『世界の日本研究』第6号（1994年）

The Study of Japan in Russia: Past and Present, Characteristics and Centres of Study

Japan Studies and Japanese Studies in Malaysia

Japanese Studies Department at the National University of Singapore: Redefining its Relevance and Viability

『世界の日本研究 2000』（2001年）

Recent and Current Studies of Japan in the United States: Reflections of a Rip Van Winkle

From Japanology to Japanese Studies and Beyond: Trends in German Scholarship

Japanese Studies in Current Russia: Inheritance and Inheritors

Present State of the Japanese Studies in France

Changing Chinese Attitudes toward the Study of Japan: A Historical Perspective

Japanese Studies in Ireland

Japanese Studies in Bulgaria

Japanese Studies in Belgium

Japanese Studies in Finland

Japanese Studies in Australia, Canada and Egypt

『世界の日本研究 2001』（2002 年）

韓国における日本研究の現状と展望

韓国における日本研究の現状と今後の展望——時代の流れに素早く適応すべき現状に迫る

韓国における日語日文学関連学会の現状と問題点

近現代の日本と朝鮮の比較研究・若干の考察——コリアにおける日本研究の原点について

韓国人が日本をフィールドワークし、民族誌を書くということ——韓国人による日本社会の人類学的研究とその認識論的考察

シンポジウム「コリアにおける日本研究の現在」の総合討論

『おくのほそ道』の世界——韓国における芭蕉像の現在をふくめて

シンポジウム『コリアにおける日本研究の現在』プログラム

『世界の日本研究 2002』（2003 年）

近代／脱近代論と脱植民地主義——研究の課題と方法論に関わって

日本統治下の朝鮮の社会と経済をどうみるか——「開発論」と「収奪論」を越えて

植民地支配政策史研究の現状と課題

植民地朝鮮の民族学・民俗学

日本植民地支配と朝鮮社会変動——社会学から見た現状と課題

植民地における日本キリスト教朝鮮伝道——現状と課題

朝鮮近代文学研究の現状と課題——韓国での論議を中心に

3・1 独立運動時の朝鮮在住宣教師と植民地権力——政治不介入の原則とその政治性をめぐって

旅券記録に見る女性人口移動——帝国日本から植民地朝鮮へ

総力戦期の植民地朝鮮における経済統制法令の整備と経済「犯罪」

民族運動勢力の共和主義・共存意識の変化に関する試論

日帝初期医療人関連法規の頒布と植民支配

韓国における在日朝鮮人史研究

総括討議

『世界の日本研究 2003』（2003 年）

The Study of Japan in Australia: A Unique Development over Eighty Years

2003 年を最後に、日本研究に関する報告集の刊行は途絶えた。しかし、海外の日本研究では、新しい研究が日々行われており、その現状を把握し情報を共有することは、日本研究の促進にとっては不可欠な作業といえるだろう。世

界の日本研究に関する報告集を引き続き刊行することによって、今後の日本研究に寄与できるものと期待している。

今回の報告集には、日本研究を行う組織についての客観的なデータはもとより、研究者自身がなぜ日本研究に飛び込み、どのような研究テーマに取り組み、これからは何をを目指すのか、について語る熱意溢れるレポートも数篇含まれている。

本報告集を通して、世界の日本研究の現状を理解し、研究の担い手たちと顔なじみになれば、本誌の目的は達せられたと思う。本誌の編集の過程で、日文研出版編集室の白石恵理氏ならびに松尾有希子氏に多大な尽力をいただいた。厚くお礼を申し上げたい。また英文の校閲は Dr. Raquel Hill にお願ひした。深く感謝申し上げる。